

## サブテーマ設定の理由及び研究協議の視点について

### 1 大会主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」

(第 13 期 全国統一研究主題 2 年次)

<キーワード> : 自立・協働・創造

[ サブテーマ ] : 夢と志をもち、協働して未来を創る子どもを育成するチーム学校づくりの推進

### 2 高知大会のサブテーマ

第 13 期 2 年次に当たる高知大会は、前年度の石川大会の研究の成果と、第 13 期全国統一主題及びキーワードの趣旨を踏まえて、サブテーマを「夢と志をもち、協働して未来を創る子どもを育成するチーム学校づくりの推進」と設定した。

私たちが生きているこの社会では、これまで以上にグローバル化やデジタルトランスフォーメーション (IT がもたらす変革) が進んでいる。また同時に、少子高齢化や地球環境問題などの多様な課題が進行しつつあり、先行きが不透明で予測困難な時代である。そのような高度化・複雑化する諸課題への対応をしながら、私たちが望む未来を私たち自身が示し、創り上げていくことが求められるようになる。

開催地である高知県は、少子・高齢化が進み、若者の県外流出等が過疎化の原因となり、小規模校の統廃合が進んでいる。また、都市部と中山間地域の教育環境が大きく異なり、それぞれに応じた地域の教育力を維持することが困難である。今後、地域の教育力を向上させていくためには、郷土への愛着と誇りをもち、グローバルな視点で高い志を掲げ、文化・コミュニティ活動等の分野で、地域の将来を担う人材が求められている。

こうした状況を踏まえ、学校は、地域社会の様々な機関等と連携することで多面的に子どもたちを育成することが望まれる。学校内外において、生涯を通じて学び成長し、主体的に社会の形成に参画していくなかで、様々な立場の人々と共生する社会を実現できる子どもを育てていきたい。そのためにも我々副校長・教頭は、チーム学校の柱として現状を適切に分析して課題解決の方向性を見極め、他の教職員や地域とのコミュニケーションを基に目指すビジョンを共有しなければならない。そして、現状に満足しないで志をもってさらに高め合うことができる環境を創り出し、共に学び続けることで、成長できた喜びを実感できる教職員集団を育てていきたい。社会に出て自立して生き抜いていくために必要な資質・能力である「未来を切り拓く力」を育み、子どもと共に歩む教職員集団として「魅力ある学校」を創り上げるために、わたしたち副校長・教頭がどのように関与し、具現化していくか、追究していきたい。

### 3 高知大会研究協議の視点

#### (1) 「未来を切り拓く力を育む」学校教育を考える

高知大会においては「未来を切り拓く力を育む」ことを「協働して未来を創る子どもを育成する」ととらえる。

学校では ICT の活用により、個別最適な学びが推進されていくなか、教師と学習者、また学習者同士が共に関わり合いながら成長することの価値や、学校内外で様々な人と直接関わる社会体験等がもたらす教育効果について、あらためて認識を深めることが重要である。そのためには、自然体験活動、スポーツ、文化芸術活動、異文化交流、地域社会への参画など、オンラインでは経験し得ないリアルな学びも大切にしていかなければならない。

副校長・教頭としてリーダーシップを発揮しながら「協働して未来を創る子どもを育成する」を進めていくために、どのような具体的な方策や取組が有効か、「継続性」「協働性」「関与性」に焦点を当てた実践研究を通して明らかにしていきたい。

#### (2) 「魅力ある学校づくり」を考える

高知大会においては、「魅力ある学校づくり」を創るため、以下の要素が不可欠だと考える。

- ① 教職員が地域とのコミュニケーションを基に目指すビジョンを共有する学校
- ② 現状に満足しないで志をもってさらに高め合うことができる環境を創り出し、共に学び続けることで、成長できた喜びを実感できる学校
- ③ 子どもと教職員、地域がやる気とやりがいを実感することができる元気溢れる学校

これらのことを達成していくために、わたしたち副校長・教頭が学校現場においてどのようにリーダーシップを発揮し、具体的な方策や有効か、「継続性」「協働性」「関与性」に焦点を当てた実践研究を通して明らかにしていきたい。